

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292800057		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 花水神 月の海		
所在地	千葉県鴨川市東江見395-2		
自己評価作成日	平成23年1月7日	評価結果市町村受理日	平成23年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成23年2月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

2年目となった現在では、利用者と職員が馴染みの関係になっています。1日の生活の流れも定着し、午前と午後のお茶の時間は、利用者と職員がゆったりと過ごしています。継続して“共に生きる”をモットーにしています。日々、力を入れていることは、当日入浴しない方は全員、午後からひとり15分程度の足浴を施行しています。それによって、水虫、浮腫の軽減に繋がっており、職員と1対1になり、会話や触れ合う事でコミュニケーションがとれています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

リビングから一面に美しい海が見渡せる、環境に恵まれたホームです。このホームの良い点は、理念にも掲げている「地域とのふれあいを大切にして、心から家族と思えるサービスをする」を開設1年10ヶ月に拘らず、既実践していることです。野菜等の差し入れ、地域行事の参加は無論の事、施設開催の納涼祭に地域の方が参加したり、夜間消防訓練に地域消防団の協力を得るなど、地域との交流が着実に根付いています。サービス面では、職員は利用者の好みを聞いて料理したり、入浴しない利用者は健康のため足浴する等、工夫して利用者本意を心がけています。現在、管理者は利用者毎の誇りを尊重する接遇や訪問歯科を検討しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との触れ合いを大切にしてい入居者の安心と安全を第1に考え、心から家族と思えるサービスに専念する事を理念とし共有している。	職員は、グループホームの主旨である地域との触れ合いを理念に織りこんでおり、妥当と思われます。この理念は、会議時に皆で確認し合う等により日頃のサービスで既実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的ではないが、夜間における火災避難訓練を実施した際、地域の消防団の方々の協力が得られ、尚救助法の指導を受け安心安全の暮らしに繋がった。	自治会に未加入ですが、地域との交流を活発に行っています。利用者が地域の行事に参加したり、地区会長の運営推進会議への出席、ホーム主催の納涼祭への地域の方の参加の他、夜間消防訓練に消防団の協力を得る等、着実に地域に根ざしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の際、老人会の方々に招待し、歌や踊りを披露して頂くが、利用者も老人会の方々も笑顔で楽しい時間を共に過ごしながら、利用者へ接している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況報告、行事報告及び健康面、保健衛生についての実施報告の他、出席者からの提案やアドバイスを頂いている。	運営推進会議は年4回、市担当、地区会長、老人会会長、民生委員、家族、管理者で隣の小規模多機能型施設と合同で開催しています。議題は、ホームの現況説明、地域との交流についてや行事の参加等で、意見を交わしています。	会議では、「外部評価説明と改善状況」「介護関係の基礎知識説明」「介護業界のその時々課題(インフルエンザ対策等)」を加え、皆で話し合い、サービスの向上に活かす事が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催による集いや研修会に参加し、新しい情報を得て事業所に持ち帰る。又、市担当者に質問や相談をさせて頂いている。	市担当には、必要な都度、報告し、相談にのって頂いています。運営推進会議には、必ず出席頂き、意見を伺っています。又市主催の研修会には、積極的に参加し、スキルのアップに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないということを原則としている。構造上の問題で危険回避策を行っているが、外出の気配がある時は寄り添い同行している。	運営規定で身体拘束の排除を謳い、マニュアルを作成し、職員は随時、社内外の研修を受けています。昼間は玄関の鍵を掛けず、玄関近くに休息用ソファを置き、チャイム付きドアの開閉に職員が気を配っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を考える資料を身近におき、課題が発生した際、ケア会議を行いケアが適切であるかどうか話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、必要性についても学び、どの様に活用したら利用者の支援に結びつくのか話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書他、同意書に目を通して頂き、説明に対し納得の上、署名、印を交わし不安や疑問等について常時、受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの意見や要望は常に耳を傾け、活かすべく、ケア会議や運営推進会議に取り上げ、討議している。	職員は、家族の来訪時に声をかけ、意見、要望を聴き、運営に反映しています。運営推進会議でも、家族に出席頂き、意見を聴くようにしています。実施例としては、足のむくみ対策、入浴方法、換気等があります。	家族には、会議に出席できない方、性格上意見を言い難い方、事柄上人前では言い難い事等があるので、利用者の居室に連絡帳を置き、家族の意見、要望を記入してもらい、対応するようにはいかかと思われます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議やその他にも意見や提案があれば可能な範囲で実施することになっている。	管理者は、職員から日頃の就業時や、月1回の職員会議で、意見、提案を聴き、運営に反映しています。実施例としては、嚥下対策、排泄介助の改善等があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の持ち味や仕事に対する意欲を大切にし、良い仕事が出来様な環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為の研修や介護福祉士資格取得の為の研修や受験に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム間による人材交流や、勉強会に参加する等の機会があり、現状の見直しやスキルアップに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して話せる環境づくりをし、同じ目の高さで気持ちの表出が出来る様な関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や心配事を軽減していく為にご家族への報告、連絡を密にし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族がどのような気持ちでどのような事を望まれているのかを察し、安心に繋がる様にと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームとしてスタートして以来、初期の目標に『共に生きる』と掲げ現在に至るが、今もその様に考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人を中心として、ご家族と職員が本人のことを共有し身体面、精神面の両面に於いて支援することに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向により、継続が可能であればパイプ役になり、良い関係が続けられる様にしている。	地元で長年過ごした利用者が多いので、リビング等から眺望できる見慣れた環境が利用者の心を癒しています。長年の友人の訪問を月1~2回受けている利用者もいます。数名の利用者は、家族が利用料や衣替えの衣服を持参する等の訪問時に言葉を交わしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や心の動きを把握しながら、関わりを強要することなく、『共に生きる』という支え合いの気持ちを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた利用者のご家族との交流があり、訪れた際、職員と会話やお茶の時間を共に過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの心の動きや思いに耳を傾け理解し、実現すべく努めているが、本人の満足度に満たない場合もあり課題として残っている。	利用者の言葉だけでなく、しぐさや反応を直ぐに読み取り意思や思いを理解するよう、職員同士で話し合い情報共有を図り、職員本位の押し付けや指導的な行動にならないよう努めています、	利用者の思いに心を寄せる接遇方法やコミュニケーション方法等の職員教育の徹底を図り、職員全体の技術を向上することが望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長年続けてきたこと、好きなこと、心地良いこと等を理解して、日々の生活に活かすことが出来る様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のなかでの動きそのものが活力となり、生きる為の意欲に繋がると考え、食事、排泄、入浴等の様子を大切に考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態の変化に気づき、職員と家族が課題を共有し、改善策を共に考えプランに繋がる様、努めている。	管理者が計画作成担当者として、職員の意見、情報を基に、家族の意見や看護師からの助言を入れて、ケアプランを作成しています。ケアサービスを経過観察し半年毎に見直しています。特変時はその都度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により、本人の状況が明確に解る活きた記録になる記入のやり方に努め、ご家族とも共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に応じ、対応することに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夜間に於ける火災避難訓練を実施した際、地域の消防団員の方々の協力が得られ、安心に繋がった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院である為、連携をはかりながら、月1回の定期受診、及び、緊急時の対応を行っている。	提携病院は、内科、整形、耳鼻科、歯科等の受診が可能で、6名の利用者が月1回通院しています。また馴染みの主治医がいる病院に家族の支援で受診する人もいます。特変時は、救急車や施設の車で対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師との利用者の状況や情報交換を常に行う様、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携シートを活用し、医療機関に情報提供を行った。相互に不明な点等は、連絡を取り合う事もあるが、課題はいくつか残されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族の思いを大切にされる様に努めている。現況を関係者全員で理解した上で、医療、介護の方向性を確認し合う様にしている。	看取り介護を行った実績があり、その時のノウハウを活かして対応する用意が職員にあります。医療的緊急性を要する場合は、提携病院と連携し家族と相談の上方針を決めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時の際の連絡方法、及び対応方法を確認し合い、実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震による津波警報時、安全な場所に全員で実際に避難を行い、夜間に於ける火災訓練実施については、地域の消防団の方々の協力が得られた。	年2回、消防署を呼んだ訓練と自主訓練を隣の施設と合同実施しています。自主訓練では、消防団の協力を得て、夜間で実際に行っています。スプリンクラー、消火器、火災報知器が設置され、緊急対応表、連絡先が掲示されています。又備蓄もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と馴染みの関係になったが、反面、慣れからくる言葉が不適切である場面が時々みられる時があり課題としている。	管理者は、利用者の尊厳を守りプライバシーや人格尊重の為、職員として求められる姿勢の徹底を全職員に指導しています。月1回の研修会だけでなく、技術研鑽を積む機会を繰返すようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思や気持ちが聞けるようになるべく、1対1で接し、安心して自分の希望が活かせる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況や利用者の体調、心の動きにより、個別対応で行う様、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入って長年使っているアクセサリーやバッグ等、常に身につけている利用者の気持ちを継続し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や地元のものを取り入れたメニュー作成に努めている。行事食も楽しんでもらえる様、利用者に希望を募る。現在、調理は難しいが片付けは一緒に行っている。	食材は週2~3回利用者と買出しに出かけていますが、食材が差し入れされる事も度々あります。食べたい物を利用者に関して料理したり、寿司等の外食に出かけ、利用者から喜ばれています。誕生会や年間行事の折にはイベント食を皆で楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	詳細な栄養摂取量は計れないが、偏食にならぬ様に心掛け、年間を通し水分摂取に対し確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは1名が自力で、他は見守り及び介助である。その中の1名がケアに対し、強い拒否があり、課題としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を継続していくことで、利用者の排泄パターンを理解しているが、排泄の自立支援は今後の課題である。	自立者の中にはオムツから自立した人もいて、職員の支援努力が窺えます。夜間は全員紙パンツやオムツですが、便秘のため下剤を服用する方も、摂取する食材を工夫したうえ、利用者のしぐさや声だし等で見分けて、羞恥心が出ないよう心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤を定期的に処方されている方もいるが、毎日の食事に根菜類や果物を取り入れたり、オリゴ糖を使用し、快便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定は作成するが、当日の体調や状況の変化により、入浴する利用者や時間をずらす等、柔軟にしている。	入浴は週2～3回ですが、夜間排便があった場合などは必ず入浴し身体清潔に気をつけています。現在職員も利用者も全員女性の為同性介護が行われています。利用者の要望によっては時間や日をずらす等の対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の午後に1時間程、昼寝の時間として、3名が自室にて休まれている。夜間良眠となる様、環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	継続して処方された内服薬も定期受診の際、日頃の状況報告をし、場合によっては、見直しをして頂く事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技とされている事を大切に生活の中で行って頂いている。尚、長年好んで続けて来られた飲み物を楽しみになる様、提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある度に、実現出来かねているが、日頃の会話の中で出かけた場所があり、可能であれば気分転換にドライブに出掛ける様、努めている。	高齢化のため外出が厳しくなっています。状態の良い時を見計らって防波堤まで散歩したり、車椅子の利用者が外気浴のため施設周辺を散歩しています。病院受診と外出を兼ねて駅まで出かけたりすることもあります。おにぎり持参で花見や紅葉、牧場やお寺のドライブ等の遠出を、皆で楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意向を傾聴し、理解した上でどの様にするかご家族と相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、電話を使用できることを伝え、職員の見守りの中、使用して頂いている。手紙も受け入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は広く海原が続き、採光に恵まれている。日光浴も十分に可能であるが、浴室、トイレからの臭いが時として不快に感じ、工夫が必要と思っている。	リビングは、日当たりが良く、清潔でゆったりとしており、海と空の絶景を一望できます。利用者は、居心地が良いせいか一日の大半をそこで過ごしているそうです。テーブルには季節の花が置かれ、行事写真、手製の日めくり暦、絵画があり、生活感、季節感を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、最も難しい課題である。共に笑顔で過ごし、時に口論となり状況に合わせて席を移動している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望する品や慣れ親しんだものは、継続して使用して頂いている。転倒等の回避の為、安全への工夫も家族と相談している。	利用者は自分のなじみの物を、部屋に持ち込み、自分の家にいるように快適に過ごしています。コタツのカーペットにつまずいた利用者がいたため、家族の了解の下、エアコンと湯たんぽに変えた事例もあります。衣替えは、原則家族にお願いしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造面では、解りやすくなっているが、自立した生活を送る事に関しては、可能であっても常に見守りや声掛けが必須である。		